

基 発 0428 第 1 号  
令和 4 年 4 月 28 日

都道府県労働局長 殿

厚生労働省労働基準局長  
( 公 印 省 略 )

## 労働安全衛生規則の一部を改正する省令の施行について

労働安全衛生規則の一部を改正する省令（令和 4 年厚生労働省令第 83 号。以下「改正省令」という。）が本日公布され、令和 4 年 10 月 1 日から施行されることとなったところである。

その改正の趣旨、内容等については、下記のとおりであるので、その運用に遺漏なきを期されたい。

なお、関係団体に対し、別紙のとおり要請を行ったので、了知されたい。

## 記

### 第 1 改正の趣旨

改正省令は、歯科健康診断の実施状況について、令和元年度に一部地域で実施した自主点検の結果により、常時使用する労働者が 50 人未満の事業場において、法定の歯科健康診断の実施率が非常に低いことが判明したことを受け、歯科健康診断の実施状況を正確に把握し、その実施率の向上を図るため、労働安全衛生規則（昭和 47 年労働省令第 32 号。以下「安衛則」という。）第 52 条等について、所要の改正を行ったものである。

### 第 2 改正の内容

- (1) 有害な業務（※）に従事する労働者に対して歯科健康診断を実施する義務のある事業者について、その使用する労働者の人数にかかわらず、安衛則第 48 条の歯科健康診断（定期のものに限る。）を行ったときは、遅滞なく、歯科健康診断の結果の報告を所轄労働基準監督署長に行わなければならないこととしたこと。

※ 労働安全衛生法施行令（昭和 47 年政令第 318 号）第 22 条第 3 項において、「塩酸、硝酸、硫酸、亜硫酸、<sup>ふっ</sup>弗化水素、黄りんその他歯又はその支持組織に有害な物のガス、蒸気又は粉じんを発生する場所における業務」と規定されている。

- (2) 現行の定期健康診断結果報告書（様式第6号）から、歯科健康診断に係る記載欄を削除することとし、歯科健康診断に係る報告書として、「有害な業務に係る歯科健康診断結果報告書（様式第6号の2）」を新たに作成したこと。当該報告書について、様式第6号により報告を求めていた事項に加え、法定の歯科健康診断の対象労働者が従事する有害な業務の具体的内容を把握するため、様式第6号には記載欄がなかった歯科健康診断に係る有害な業務の内容等の記載欄を追加したこと。
- (3) その他所要の改正を行ったものであること。

### 第3 施行期日等

#### (1) 施行期日

改正省令は、令和4年10月1日より施行することとしたこと。

#### (2) 経過措置

改正省令の施行の際、現に提出されている改正省令による改正前の安衛則（以下「旧安衛則」という。）様式第6号の報告書（安衛則第48条の健康診断（定期のものに限る。）に係るものに限る。）は、改正省令による改正後の安衛則様式第6号の2の報告書とみなすとともに、改正省令の施行の際、現にある旧安衛則に定める報告書の用紙については、当分の間、これを取り繕って使用することができることとしたこと。

また、改正省令の施行の前に行われた安衛則第48条の健康診断（定期のものに限る。）に係る同令第52条の規定の適用については、なお従前の例によることとしたこと。

別紙

基 発 0428 第 2 号  
令和 4 年 4 月 28 日

(別記関係団体、事業者団体の長) 殿

厚生労働省労働基準局長

### 労働安全衛生規則の一部を改正する省令の施行について

労働基準行政の運営につきましては、日頃から格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、労働安全衛生規則の一部を改正する省令(令和4年厚生労働省令第83号。以下「改正省令」という。)が本日公布され、有害な業務に従事する労働者に対する歯科健康診断の結果の報告に係る改正を行ったところです。改正省令につきましては、令和4年10月1日から施行することとしており、改正省令の施行につき、別添のとおり都道府県労働局長宛て指示しております。

改正省令の趣旨及び内容は別添のとおりですので、貴団体におかれましても、歯科健康診断の適切な実施及び報告に関する本制度改正の趣旨を御理解いただき、傘下団体、会員事業場等に対して周知いただきますよう、特段の御配慮をお願い申し上げます。

## (別記関係団体、事業者団体)

- アクリル酸エステル工業会  
 ECP 協会  
 板硝子協会  
 一般財団法人 F A 財団  
 一般財団法人エンジニアリング協会  
 一般財団法人化学物質評価研究機構  
 一般財団法人建設業振興基金  
 一般財団法人首都高速道路協会  
 一般財団法人製造科学技術センター  
 一般財団法人石炭フロンティア機構  
 一般財団法人先端加工機械技術振興協会  
 一般財団法人大日本蚕糸会  
 一般財団法人日本カメラ財団  
 一般財団法人日本軸受検査協会  
 一般財団法人日本船舶技術研究協会  
 一般財団法人日本陶業連盟  
 一般財団法人日本皮革研究所  
 一般財団法人日本溶接技術センター  
 一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター  
 一般財団法人マイクロマシンセンター  
 一般社団法人日本在外企業協会  
 一般社団法人アルコール協会  
 一般社団法人海洋水産システム協会  
 一般社団法人仮設工業会  
 一般社団法人家庭電気文化会  
 一般社団法人カメラ映像機器工業会  
 一般社団法人火力原子力発電技術協会  
 一般社団法人強化プラスチック協会  
 一般社団法人軽仮設リース業協会  
 一般社団法人軽金属製品協会  
 一般社団法人建設産業専門団体連合会  
 一般社団法人合板仮設材安全技術協会  
 一般社団法人コンクリートパイル・ポール協会  
 一般社団法人色材協会  
 一般社団法人自転車協会  
 一般社団法人住宅生産団体連合会  
 一般社団法人住宅リフォーム推進協議会  
 一般社団法人潤滑油協会  
 一般社団法人新金属協会  
 一般社団法人全国スーパーマーケット協会  
 一般社団法人全国LPガス協会  
 一般社団法人全国クレーン建設業協会  
 一般社団法人全国警備業協会  
 一般社団法人全国建設業協会  
 一般社団法人全国建築コンクリートブロック工業会  
 一般社団法人全国石油協会  
 一般社団法人全国中小建設業協会  
 一般社団法人全国中小貿易業連盟  
 一般社団法人全国鐵構工業協会  
 一般社団法人全国登録教習機関協会  
 一般社団法人全国防水工事業協会  
 一般社団法人全国木質セメント板工業会  
 一般社団法人全日本建築士会  
 一般社団法人全日本航空事業連合会  
 一般社団法人全日本マリンスプライヤーズ協会  
 一般社団法人送電線建設技術研究会  
 一般社団法人ソーラーシステム振興協会  
 一般社団法人大日本水産会  
 一般社団法人電気協同研究会  
 一般社団法人電気設備学会  
 一般社団法人電気通信協会  
 一般社団法人電子情報技術産業協会  
 一般社団法人電池工業会  
 一般社団法人電力土木技術協会  
 一般社団法人日本電設工業協会  
 一般社団法人日本アスファルト合材協会  
 一般社団法人日本アスファルト乳剤協会  
 一般社団法人日本アミューズメント産業協会  
 一般社団法人日本アルミニウム協会  
 一般社団法人日本アルミニウム合金協会  
 一般社団法人日本医療機器工業会  
 一般社団法人日本医療機器産業連合会  
 一般社団法人日本医療法人協会  
 一般社団法人日本印刷産業機械工業会  
 一般社団法人日本印刷産業連合会  
 一般社団法人日本エアゾール協会  
 一般社団法人日本エルピーガスプラント協会  
 一般社団法人日本エレベーター協会  
 一般社団法人日本オーディオ協会  
 一般社団法人日本陸用内燃機関協会  
 一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会  
 一般社団法人日本音響材料協会  
 一般社団法人日本科学機器協会  
 一般社団法人日本化学工業協会  
 一般社団法人日本化学品輸出入協会  
 一般社団法人日本化学物質安全・情報センター  
 一般社団法人日本ガス協会  
 一般社団法人日本画像医療システム工業会  
 一般社団法人日本金型工業会  
 一般社団法人日本火薬銃砲商組合連合会  
 一般社団法人日本硝子製品工業会  
 一般社団法人日本機械工業連合会  
 一般社団法人日本機械設計工業会  
 一般社団法人日本機械土工協会  
 一般社団法人日本基礎建設協会

一般社団法人日本絹人繊維物工業会  
一般社団法人日本金属プレス工業協会  
一般社団法人日本金属屋根協会  
一般社団法人日本空調衛生工事業協会  
一般社団法人日本グラフィックサービス工業会  
一般社団法人日本クレーン協会  
一般社団法人日本くん蒸技術協会  
一般社団法人日本経済団体連合会  
一般社団法人日本計量機器工業連合会  
一般社団法人日本毛皮協会  
一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会  
一般社団法人日本建設機械工業会  
一般社団法人日本建設機械施工協会  
一般社団法人日本建設機械レンタル協会  
一般社団法人日本建設業連合会  
一般社団法人日本建築材料協会  
一般社団法人日本建築士事務所協会連合会  
一般社団法人日本建築板金協会  
一般社団法人日本港運協会  
一般社団法人日本工業炉協会  
一般社団法人日本航空宇宙工業会  
一般社団法人日本工作機械工業会  
一般社団法人日本工作機器工業会  
一般社団法人日本合成樹脂技術協会  
一般社団法人日本コミュニティーガス協会  
一般社団法人日本ゴム工業会  
一般社団法人日本サッシ協会  
一般社団法人日本産業・医療ガス協会  
一般社団法人日本産業機械工業会  
一般社団法人日本産業車両協会  
一般社団法人日本自動車機械器具工業会  
一般社団法人日本自動車機械工具協会  
一般社団法人日本自動車工業会  
一般社団法人日本自動車車体工業会  
一般社団法人日本自動車整備振興会連合会  
一般社団法人日本自動車タイヤ協会  
一般社団法人日本自動車部品工業会  
一般社団法人日本自動認識システム協会  
一般社団法人日本自動販売システム機械工業会  
一般社団法人日本試薬協会  
一般社団法人日本写真映像用品工業会  
一般社団法人日本砂利協会  
一般社団法人日本照明工業会  
一般社団法人日本食品機械工業会  
一般社団法人日本私立医科大学協会  
一般社団法人日本伸銅協会  
一般社団法人日本新聞協会  
一般社団法人日本繊維機械協会  
一般社団法人日本染色協会  
一般社団法人日本船舶電装協会  
一般社団法人日本倉庫協会  
一般社団法人日本造船協力事業者団体連合会  
一般社団法人日本造船工業会  
一般社団法人日本測量機器工業会  
一般社団法人日本損害保険協会  
一般社団法人日本ダイカスト協会  
一般社団法人日本大ダム会議  
一般社団法人日本鍛圧機械工業会  
一般社団法人日本鍛造協会  
一般社団法人日本タンナーズ協会  
一般社団法人日本チタン協会  
一般社団法人日本中小型造船工業会  
一般社団法人日本中小企業団体連盟  
一般社団法人日本鑄造協会  
一般社団法人日本鉄鋼連盟  
一般社団法人日本鉄塔協会  
一般社団法人日本鉄道車輛工業会  
一般社団法人日本鉄リサイクル工業会  
一般社団法人日本電化協会  
一般社団法人日本電気協会  
一般社団法人日本電気計測器工業会  
一般社団法人日本電機工業会  
一般社団法人日本電気制御機器工業会  
一般社団法人日本電子回路工業会  
一般社団法人日本電子デバイス産業協会  
一般社団法人日本電力ケーブル接続技術協会  
一般社団法人日本DIY・ホームセンター協会  
一般社団法人日本銅センター  
一般社団法人日本動力協会  
一般社団法人日本道路建設業協会  
一般社団法人日本時計協会  
一般社団法人日本塗装工業会  
一般社団法人日本鳶工業連合会  
一般社団法人日本塗料工業会  
一般社団法人日本内燃力発電設備協会  
一般社団法人日本ねじ工業協会  
一般社団法人日本農業機械工業会  
一般社団法人日本配線システム工業会  
一般社団法人日本配電制御システム工業会  
一般社団法人日本船用機関整備協会  
一般社団法人日本歯車工業会  
一般社団法人日本ばね工業会  
一般社団法人日本バルブ工業会  
一般社団法人日本パレット協会  
一般社団法人日本半導体製造装置協会  
一般社団法人日本皮革産業連合会  
一般社団法人日本左官業組合連合会  
一般社団法人日本非破壊検査工業会  
一般社団法人日本病院会

一般社団法人日本表面処理機材工業会  
一般社団法人日本ビルディング協会連合会  
一般社団法人日本フードサービス協会  
一般社団法人日本フルードパワー工業会  
一般社団法人日本分析機器工業会  
一般社団法人日本粉体工業技術協会  
一般社団法人日本ベアリング工業会  
一般社団法人日本ベッ甲協会  
一般社団法人日本ボイラ協会  
一般社団法人日本ボイラ整備据付協会  
一般社団法人日本防衛装備工業会  
一般社団法人日本貿易会  
一般社団法人日本望遠鏡工業会  
一般社団法人日本芳香族工業会  
一般社団法人日本縫製機械工業会  
一般社団法人日本包装機械工業会  
一般社団法人日本ホームヘルス機器協会  
一般社団法人日本保温保冷工業協会  
一般社団法人日本マリン事業協会  
一般社団法人日本民営鉄道協会  
一般社団法人日本綿花協会  
一般社団法人日本木工機械工業会  
一般社団法人日本溶接容器工業会  
一般社団法人日本溶融亜鉛鍍金協会  
一般社団法人日本猟用資材工業会  
一般社団法人日本旅客船協会  
一般社団法人日本臨床検査薬協会  
一般社団法人日本冷蔵倉庫協会  
一般社団法人日本冷凍空調工業会  
一般社団法人日本冷凍空調設備工業連合会  
一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会  
一般社団法人日本ロボット工業会  
一般社団法人日本綿業倶楽部  
一般社団法人農業電化協会  
一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会  
一般社団法人不動産協会  
一般社団法人プラスチック循環利用協会  
一般社団法人プレハブ建築協会  
一般社団法人林業機械化協会  
印刷インキ工業連合会  
印刷工業会  
ウレタン原料工業会  
ウレタンフォーム工業会  
塩ビ工業・環境協会  
欧州ビジネス協会医療機器・IVD 委員会  
押出発泡ポリスチレン工業会  
化成品工業協会  
可塑剤工業会  
硝子繊維協会  
関西化学工業協会  
協同組合資材連  
協同組合日本製パン製菓機械工業会  
クロロカーボン衛生協会  
研削砥石工業会  
建設業労働災害防止協会  
建設廃棄物協同組合  
建設労務安全研究会  
公益財団法人油空圧機器技術振興財団  
公益財団法人安全衛生技術試験協会  
公益財団法人NSKメカトロニクス技術高度化財団  
公益財団法人工作機械技術振興財団  
公益財団法人産業医学振興財団  
公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会  
公益社団法人インテリア産業協会  
公益社団法人建設荷役車両安全技術協会  
公益社団法人産業安全技術協会  
公益社団法人自動車技術会  
公益社団法人全国解体工事業団体連合会  
公益社団法人全国産業資源循環連合会  
公益社団法人全国ビルメンテナンス協会  
公益社団法人全国労働衛生団体連合会  
公益社団法人全国労働基準関係団体連合会  
公益社団法人全日本トラック協会  
公益社団法人全日本サイン協会  
公益社団法人全日本病院協会  
公益社団法人全日本不動産協会  
公益社団法人日本医師会  
公益社団法人日本煙火協会  
公益社団法人日本化学会 環境・安全推進委員会  
公益社団法人日本建築家協会  
公益社団法人日本建築士会連合会  
公益社団法人日本作業環境測定協会  
公益社団法人日本産業衛生学会  
公益社団法人日本歯科医師会  
公益社団法人日本歯科衛生士会  
公益社団法人日本歯科技工士会  
公益社団法人日本精神科病院協会  
公益社団法人日本セラミックス協会  
公益社団法人日本洗浄技能開発協会  
公益社団法人日本電気技術者協会  
公益社団法人日本プラントメンテナンス協会  
公益社団法人日本保安用品協会  
公益社団法人日本ボウリング場協会  
公益社団法人日本木材保存協会  
公益社団法人ボイラ・クレーン安全協会  
公益社団法人有機合成化学協会  
合成ゴム工業会  
合成樹脂工業協会  
高発泡ポリエチレン工業会

港湾貨物運送事業労働災害防止協会  
コンクリート用化学混和剤協会  
酢ビ・ポバール工業会  
写真感光材料工業会  
触媒工業協会  
触媒資源化協会  
ステンレス協会  
石油化学工業協会  
石油連盟  
日本高温断熱ウール工業会  
全国仮設安全事業協同組合  
一般社団法人全国ガラス外装クリーニング協会連合会  
全国機械用刃物研磨工業協同組合  
全国グラビア協同組合連合会  
全国クリーニング生活衛生同業組合連合会  
全国建設業協同組合連合会  
全国興行生活衛生同業組合連合会  
全国自動ドア協会  
全国社会保険労務士会連合会  
全国商工会連合会  
全国醸造機器工業組合  
全国製菓機器商工協同組合  
全国製菓厨房機器原材料協同組合  
全国タイヤ商工協同組合連合会  
全国段ボール工業組合連合会  
全国中小企業団体中央会  
全国土壌改良資材協議会  
全国トラクターミナル協会  
一般社団法人全国農業協同組合中央会  
全国ミシン商工業協同組合連合会  
全国鍍金工業組合連合会  
全日本印刷工業組合連合会  
全日本紙製品工業組合  
全日本革靴工業協同組合連合会  
全日本光沢化工紙協同組合連合会  
全日本シール印刷協同組合連合会  
全日本紙器段ボール箱工業組合連合会  
全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会  
全日本製本工業組合連合会  
全日本電気工事業工業組合連合会  
全日本爬虫類皮革産業協同組合  
全日本プラスチック製品工業連合会  
全日本木工機械商業組合  
ダイヤモンド工業協会  
中央労働災害防止協会  
電機・電子・情報通信産業経営者連盟  
電気硝子工業会  
電気事業連合会  
電線工業経営者連盟  
天然ガス鉱業会

独立行政法人労働者健康安全機構  
トラクター懇話会  
奈良県毛皮革協同組合連合会  
ニッケル協会東京事務所  
日本圧力計温度計工業会  
一般社団法人日本医薬品添加剤協会  
日本エアゾルヘアーラッカー工業組合  
日本ABS樹脂工業会  
日本LPガス協会  
一般社団法人日本オートケミカル工業会  
日本界面活性剤工業会  
日本化学繊維協会  
日本ガスメーター工業会  
日本ガソリン計量機工業会  
日本家庭用殺虫剤工業会  
日本家庭用洗剤工業会  
日本火薬工業会  
日本硝子計量器工業協同組合  
日本ガラスびん協会  
日本革類卸売事業協同組合  
日本機械工具工業会  
日本機械鋸・刃物工業会  
日本靴工業会  
日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会  
日本化粧品工業連合会  
日本建築仕上学会  
日本建築仕上材工業会  
日本顕微鏡工業会  
日本高圧ガス容器バルブ工業会  
日本光学工業協会  
日本光学測定機工業会  
日本鉱業協会  
日本工業塗装協同組合連合会  
日本工作機械販売協会  
日本合板工業組合連合会  
日本香料工業会  
日本ゴム履物協会  
日本酸化チタン工業会  
日本産業洗浄協議会  
日本試験機工業会  
日本室内装飾事業協同組合連合会  
日本自動車輸入組合  
日本自動販売機保安整備協会  
日本酒造組合中央会  
日本商工会議所  
一般社団法人日本真空工業会  
日本吹出口工業会  
日本ステレン工業会  
日本製缶協会  
日本製紙連合会  
日本精密機械工業会

日本精密測定機器工業会  
日本製薬団体連合会  
日本石鹼洗剤工業会  
日本石鹼洗剤工業組合  
日本接着剤工業会  
日本ゼラチン・コラーゲン工業組合  
日本繊維板工業会  
日本ソーダ工業会  
日本暖房機器工業会  
日本チェーン工業会  
日本チェーンストア協会  
一般社団法人日本鑄鍛鋼会  
日本陶磁器工業協同組合連合会  
日本内航海運組合総連合会  
日本内燃機関連合会  
日本難燃剤協会  
日本パーマネントウェーブ液工業組合  
日本バーミキュライト工業会

日本齒磨工業会  
日本ビニル工業会  
日本肥料アンモニア協会  
日本フォーム印刷工業連合会  
日本フォームスチレン工業組合  
一般社団法人日本弗素樹脂工業会  
日本部品供給装置工業会  
日本プラスチック機械工業会  
日本プラスチック工業連盟  
日本フルオロカーボン協会  
日本ヘアカラー工業会  
日本PETフィルム工業会  
日本ボイラー・圧力容器工業組合  
日本防疫殺虫剤協会  
日本紡績協会  
日本ポリオレフィンフィルム工業組合  
日本無機薬品協会  
一般社団法人日本メンテナンス工業会



○厚生労働省令第八十三号

労働安全衛生法（昭和四十七年法律第五十七号）第一百条第一項及び第一百十三条の規定に基づき、労働安全衛生規則の一部を改正する省令を次のように定める。

令和四年四月二十八日

厚生労働大臣 後藤 茂之

労働安全衛生規則の一部を改正する省令

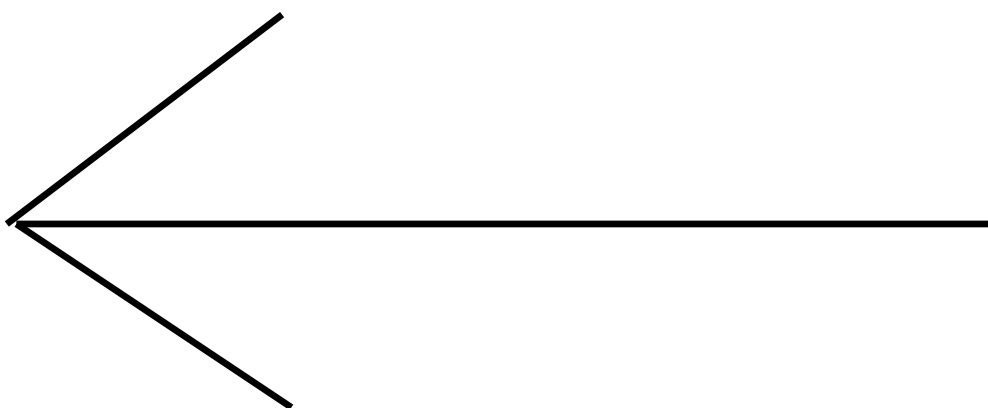
労働安全衛生規則（昭和四十七年労働省令第三十二号）の一部を次のように改正する。

次の表のように改正する。

(傍線部分は改正部分)

改正後	改正前
<p>(健康診断結果報告)</p> <p>第五十二条 常時五十人以上の労働者を使用する事業者は、第四十四条又は第四十五条の健康診断(定期のものに限る。)を行つたときは、遅滞なく、定期健康診断結果報告書(様式第六号)を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。</p> <p>2  事業者は、第四十八条の健康診断(定期のものに限る。)を行つたときは、遅滞なく、有害な業務に係る歯科健康診断結果報告書(様式第六号の二)を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。</p> <p>(検査及び面接指導結果の報告)</p> <p>第五十二条の二十一 常時五十人以上の労働者を使用する事業者は、一年以内ごとに一回、定期的に、心理的な負担の程度を把握するための検査結果等報告書(様式第六号の三)を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。</p>	<p>(健康診断結果報告)</p> <p>第五十二条 常時五十人以上の労働者を使用する事業者は、第四十四条、第四十五条又は第四十八条の健康診断(定期のものに限る。)を行なつたときは、遅滞なく、定期健康診断結果報告書(様式第六号)を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。</p> <p>(新設)</p> <p>(検査及び面接指導結果の報告)</p> <p>第五十二条の二十一 常時五十人以上の労働者を使用する事業者は、一年以内ごとに一回、定期的に、心理的な負担の程度を把握するための検査結果等報告書(様式第六号の二)を所轄労働基準監督署長に提出しなければならない。</p>

様式第六号を次のように改める。



定期健康診断結果報告書

80311

労働  
保険  
番号

都道府県 所管 管轄 基幹番号 枝番号 被一括事業場番号

対象年 7:平成 9:令和 元号 年 (月~月分)(報告回目) 健診年月日 7:平成 9:令和 元号 年 月 日 1~9年は右↑ 1~9月は右↑ 1~9日は右↑ 事業の種類 事業場の名称 事業場の所在地 郵便番号( ) 電話 ( )

健康診断実施機関の名称 在籍労働者数 健康診断実施機関の所在地 受診労働者数 右に詰めて記入する↑

(\*)労働安全衛生規則第13条第1項第3号に掲げる業務に従事する労働者数(右に詰めて記入する) イ 人 ロ 人 ハ 人 ニ 人 ホ 人 ヘ 人 ト 人 チ 人 リ 人 ヌ 人 ル 人 ヨ 人 ワ 人 カ 人 計 人

Table with 7 columns: 項目, 実施者数, 有所見者数, 実施者数, 有所見者数. Rows include: 聴力検査(オーディオメーターによる検査)(1000Hz), 聴力検査(オーディオメーターによる検査)(4000Hz), 聴力検査(その他の方法による検査), 胸部エックス線検査, 喀痰検査, 血圧, 貧血検査, 肝機能検査, 血中脂質検査, 血糖検査, 尿検査(糖), 尿検査(たんたん(蛋白)), 心電図検査.

所見のあった者の人数 医師の指示人数

産業医 氏名 所属機関の名称及び所在地

年 月 日

事業者職氏名

労働基準監督署長殿



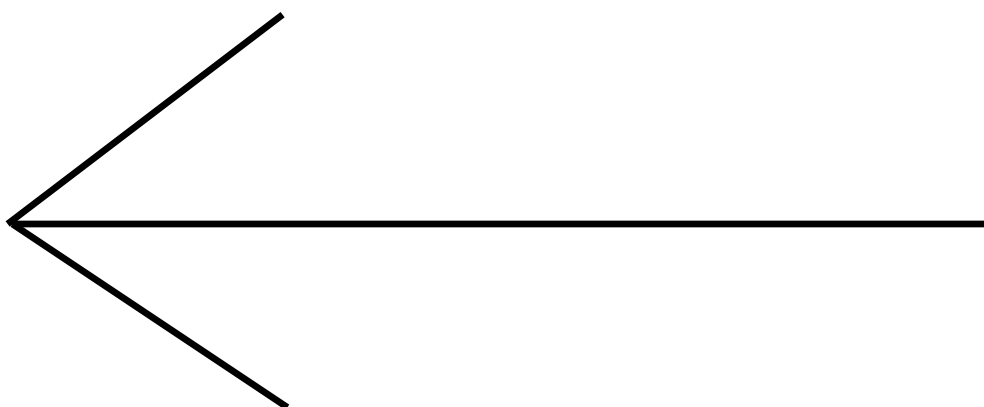
折り曲げる場合は( )の所を谷に折り曲げる

様式第6号(第52条関係) (裏面)

備考

- 1 □□□で表示された枠(以下「記入枠」という。)に記入する文字は、光学的文字・イメージ読取装置(OCR)で直接読み取りを行うので、この用紙は汚したり、穴をあけたり、必要以上に折り曲げたりしないこと。
- 2 記入すべき事項のない欄及び記入枠は、空欄のままとする。
- 3 記入枠の部分は、必ず黒のボールペンを使用し、枠からはみ出さないように大きめのアラビア数字で明瞭に記入すること。
- 4 「対象年」の欄は、報告対象とした健康診断の実施年を記入すること。
- 5 1年を通し順次健診を実施して、一定期間をまとめて報告する場合は、「対象年」の欄の(月～月分)にその期間を記入すること。また、この場合の健診年月日は報告日に最も近い健診年月日を記入すること。
- 6 「対象年」の欄の(報告回数)は、当該年の何回目の報告かを記入すること。
- 7 「事業の種類」の欄は、日本標準産業分類の中分類によつて記入すること。
- 8 「健康診断実施機関の名称」及び「健康診断実施機関の所在地」の欄は、健康診断を実施した機関が2以上あるときは、その各々について記入すること。
- 9 「在籍労働者数」及び「受診労働者数」の欄は、健診年月日現在の人数を記入すること。なお、この場合の「在籍労働者数」は、常時使用する労働者数を記入すること。
- 10 (\* )の欄は、健診年月日現在において、労働安全衛生規則第13条第1項第3号に掲げる以下の業務に常時従事する労働者を記入することとし、2以上の号別(イ～カ)に該当するものについては、主として従事する業務の欄に記入すること。
  - イ 多量の高熱物体を取り扱う業務及び著しく暑熱な場所における業務
  - ロ 多量の低温物体を取り扱う業務及び著しく寒冷な場所における業務
  - ハ ラジウム放射線、エックス線その他の有害放射線にさらされる業務
  - ニ 土石、獣毛等のじんあい又は粉末を著しく飛散する場所における業務
  - ホ 異常気圧下における業務
  - へ さく岩機、<sup>びょう</sup> 打機等の使用によつて、身体に著しい振動を与える業務
  - ト 重量物の取扱い等重激な業務
  - チ ボイラー製造等強烈な騒音を発する場所における業務
  - リ 坑内における業務
  - ヌ 深夜業を含む業務
  - ル 水銀、<sup>ひ</sup> 砒素、<sup>ふっ</sup> 黄りん、<sup>ふっ</sup> 弗化水素酸、塩酸、硝酸、硫酸、青酸、か性アルカリ、石炭酸その他これらに準ずる有害物を取り扱う業務
  - ヲ 鉛、水銀、クロム、<sup>ひ</sup> 砒素、<sup>ふっ</sup> 黄りん、<sup>ふっ</sup> 弗化水素、塩素、塩酸、硝酸、亜硫酸、硫酸、一酸化炭素、二硫化炭素、青酸、ベンゼン、アニリンその他これらに準ずる有害物のガス、蒸気又は粉じんを発生する場所における業務
  - ワ 病原体によつて汚染のおそれが著しい業務
  - カ その他厚生労働大臣が定める業務
- 11 「所見のあつた者の人数」の欄は、各健康診断項目の有所見者数の合計ではなく、「聴力検査(オーディオメーターによる検査)(1000Hz)」から「心電図検査」までの健康診断項目のいずれかが有所見であつた者の人数を記入すること。
- 12 「医師の指示人数」の欄は、健康診断の結果、要医療、要精密検査等医師による指示のあつた者の数を記入すること。

様式第六号の二を様式第六号の三とし、様式第六号の次に次の一様式を加える。



有害な業務に係る歯科健康診断結果報告書

8 0 3 0 4

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

労働保険番号	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>					在籍労働者数	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>右に詰めて記入する↑</small>
対象年	9 : 令和 →	<small>元号</small> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>年</small> <small>1~9年は右↑</small>	( 月 ~ 月分) (報告 回目)	健診年月日	9 : 令和 →	<small>元号</small> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>年</small> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>月</small> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>日</small> <small>1~9年は右↑ 1~9月は右↑ 1~9日は右↑</small>	
事業の種類				事業場の名称			
事業場の所在地	郵便番号 ( )			電話 ( )			

健康診断実施機関の名称	
健康診断実施機関の所在地	

項目	取扱有害物質・業務内容	物質
	業務内容	
労働安全衛生法施行令第22条第3項に掲げる業務に従事する労働者数		<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>右に詰めて記入する↑</small>
受診労働者数		<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>右に詰めて記入する↑</small>
所見のあった者の人数		<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <small>右に詰めて記入する↑</small>

折り曲げる場合は(▲)の所を谷に折り曲げる(▲)

産業医	氏名
	所属機関の名称及び所在地

年 月 日

事業者職氏名

労働基準監督署長殿

受付印



様式第6号の2（第52条関係）（裏面）

備考

- 1 □□□で表示された枠（以下「記入枠」という。）に記入する文字は、光学的文字・イメージ読取装置（OCIR）で直接読み取りを行うので、この用紙は汚したり、穴をあけたり、必要以上に折り曲げたりしないこと。
- 2 記入すべき事項のない欄及び記入枠は、空欄のままとすること。
- 3 記入枠の部分は、必ず黒のボールペンを使用し、枠からはみ出さないように大きめのアラビア数字で明瞭に記入すること。
- 4 「対象年」の欄は、報告対象とした健康診断の実施年を記入すること。
- 5 1年を通し順次健診を実施して、一定期間をまとめて報告する場合は、「対象年」の欄の（月～月分）にその期間を記入すること。また、この場合の健診年月日は報告日に最も近い健診年月日を記入すること。
- 6 「対象年」の欄の（報告 回目）は、当該年の何回目の報告かを記入すること。
- 7 「事業の種類」の欄は、日本標準産業分類の中分類によつて記入すること。
- 8 「健康診断実施機関の名称」及び「健康診断実施機関の所在地」の欄は、健康診断を実施した機関が2以上あるときは、その各々について記入すること。
- 9 「取扱有害物質・業務内容」の「物質」欄は、塩酸、硝酸、硫酸、亜硫酸、<sup>ふっ</sup>弗化水素、黄りんその他歯又はその支持組織に有害な物のうち、事業場においてガス、蒸気又は粉じんとして発散されているものを、「業務内容」欄は、当該物質が発散されている場所における具体的な業務内容を記入すること。
- 10 「在籍労働者数」、「労働安全衛生法施行令第22条第3項に掲げる業務に従事する労働者数」及び「受診労働者数」の欄は、健診年月日現在の人数を記入すること。なお、この場合の「在籍労働者数」は、常時使用する労働者数を記入すること。



## 附 則

### (施行期日)

1 この省令は、令和四年十月一日から施行する。

### (経過措置)

2 この省令の施行の際現に提出されているこの省令による改正前の労働安全衛生規則（次項において「旧安衛則」という。）様式第六号の報告書（労働安全衛生規則第四十八条の健康診断（定期のものに限る。）に係るものに限る。）は、この省令による改正後の労働安全衛生規則様式第六号の二の報告書とみなす。

3 この省令の施行の際現にある旧安衛則に定める報告書の用紙については、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

4 この省令の施行の日前に行われた労働安全衛生規則第四十八条の健康診断（定期のものに限る。）に係る同令第五十二条の規定の適用については、なお従前の例による。